

[編集後記]

松崎がいつくしむようにおりあげてきた『戦記』。印象的な模様を思い起こしながら通読すれば、懐かしい世界が広がる◆『古墳時代の日本』は松尾の古代史シリーズのひとつである。権力をめぐり、ひとの動きは昔も今も変わらない◆「教育改革」は絶えず語られる。しかし、その実効ははっきりと見えないことが多い。和田は「国際的実践報告」によって、ひとつの先進的な事例を示している◆詩を読む楠瀬は、これまで異国の詩人のことばへの最接近をめざしていたが、今回は伝統の中に個別の詩をおいて読んでみた◆さまざまに地は震え、さまざまにひとのこころも震える。樋口の語る『子供の命を守ること』に多くのひとが耳を傾けてほしい。ひとりひとりのこどものことを思う教育を考えたいものである◆以上、五編を最終号に掲載する。〈く〉